



乳幼児の視覚と聴覚の不安に対処する： Washington州のThree-Pronged Approach (三点アプローチ)

Early Support for Infants and Toddlers (乳幼児の早期支援) (ESIT) プログラムからの紹介

Washington Sensory Disabilities Services (ワシントン州知覚障害サービス) (WSDS)

は、専門的に認められた基準を用いて、親の不安、観察可能な幼児の行動、聴覚と視覚に関する技能発達面の記録を取る方法としてThree-Pronged Approach (三点アプローチ) (TPA) を考案しました。



この方法の目的は3つあります：

1. お子様の視覚や聴覚に影響を与える可能性のあるリスク要因について、ESIT提供者の理解を深める。
2. お子様の聴覚と視覚に対処していることを証明するために、「検査」を行う。
3. お子様の聴覚や視覚にさらなる診断的評価が必要となる時を判断する。

聴覚と視覚の不安をできるだけ早期に特定し、お子様の成長への影響を軽減することが最も重要な目標です。

Three-Pronged Approach (三点アプローチ) は、客観的な検査手順に代わるものではありません。耳音響放射 (OAE) による聴覚検査、フォトスクリーンによる視覚検査、および/または小児聴覚士、検眼士、眼科医による診断的評価と組み合わせて使用できれば、理想的です。しかし、多くの場合、ESIT提供者がこれらの知覚領域を検査し、聴覚と視覚に関する情報を一箇所にまとめて文書として記録する方法は、TPAしかありません。

ESITでは、聴覚と視覚に関する最新情報を、すべてのお子様のIndividualized Family Service Plan (個別家族サービス計画) (IFSP) に含めることが求められています。TPAはESITのために特別に考案され、家族の受入れ手続きの一環として情報を捉え、その後毎年、IFSPに結果を文書として記録するために使用されます。

この文書について別の書式や言語でのコピーをご希望の方は、DCYF Constituent Relations (DCYF コンスティチュエント・リレーションズ) (1-800-723-4831 / 360-902-8060, ConstRelations@dcyf.wa.gov)までご連絡ください。

DCYF PUBLICATION FS_0069 JA (11-2021) Japanese



Washington State Department of
CHILDREN, YOUTH & FAMILIES